

令和5年度松戸市自殺対策推進部会 意見のまとめ

【意見提出期間】令和5年11月10日(金)～令和5年11月19日(日)

【参加者】飯野理恵委員、武田直己委員、加藤木好美委員、竹内恵子委員、町山貴子委員  
木内利明委員、宮本晃委員、元川智栄委員、斎藤浩一委員  
水嶋春朔オブザーバー、後藤良輔オブザーバー、早坂勝久オブザーバー  
竹内啓二オブザーバー

<部会長の選出について>

たけだメンタルクリニック 「武田直己委員」 を部会長に選出 ※全員一致(委員9名中9名)の承認による
---

<議題(1)松戸市自殺対策計画の概要について・議題(2)松戸市の自殺の現状について>

飯野 理恵委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・自殺の原因は様々なことが重なっていると考えられますので、市役所内での連携がとても大事になると思います。相談窓口や相談業務に関わっている方々の対応によって自殺を思いとどまった方もいると考えられますので、これからも丁寧な対応をしていただけるとよいかと思えます。</li></ul>
武田 直己委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・自殺の現状について、松戸市と国で大きな変化、違いは認められません。</li><li>・精神科医の立場では、自殺の原因は全てが精神医学的なものではないと考えます。自殺者の約2/3は精神疾患があるというレポートがありますが、経験上、自殺する方の1/3ぐらいは全く精神医学的な診断が付きません。例えば商売がうまくいなくて、前日に多量飲酒し、気がつけば腹部を刺していたなど、単純に「うつ」などとは言えない方も多いのが現実です。</li><li>・孤立しがちな中高年男性、特に経済的厳しさに直面した単身生活者をどう支援するかが問題です。各部署の連携が求められます。</li></ul>
竹内 恵子委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・若年層10代～30代では死亡原因の一位になっている。若年層に対する相談窓口の増設など、気軽に相談できるようにしたい。</li></ul>
町山 貴子委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・市社会福祉協議会では生活困窮者の相談事業等を行っています。相談者は、生活困窮だけでなく複合的な問題が重なっている場合も多くあります。相談窓口としては、話を十分に聞き、つなげるところに積極的につなぐ対応をしております。丁寧な相談業務が大事だと感じています。</li><li>・年内に相談員、民生委員対象のゲートキーパー養成研修を開催す</li></ul>

	<p>る予定で、市にも協力していただいております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 4 相談状況調査 重点施策のうち 勤務、経営問題に関する自殺対策の推進について関連する施策、相談窓口は少なく感じました（感じられました）</li> </ul>
木内 利明委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商工会議所として自殺の問題に対応したことはありませんが、事業の廃業、倒産といった「会社」がなくなること直面することがあります。その過程で「人」である経営者が亡くなるようなこともあるのではないかと想定はしていますが、現在そのような案件は発生していません。</li> <li>・経営相談等で心がけていることは、経営者に寄り添うアドバイスができるよう対話と傾聴に重点を置いています。自殺についても同じことが言えるのではないかと考えております。</li> <li>・資料 3、2 ページ、自殺死亡率の平均値について、本市が下げ止まっている事由が判明していれば伺いたいです。</li> </ul> <p>⇒健康推進課より回答：</p> <p>本市に限らず、全国や千葉県においても令和 2 年以降、自殺死亡率は下げ止まりになっている状況です。これについては新型コロナウイルス感染症拡大の影響等で自殺の要因となり得る様々な問題が悪化したことも要因の一つと考えられております。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響について確定的なことは分かっておらず、国は、引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の自殺への影響について情報収集・分析を行うこととしています。</p> <p>本市の自殺死亡率の平均値については、平成 25 年から令和 4 年の 10 年平均では、全国、千葉県とほぼ同水準でありましたが、平成 30 年から令和 4 年の 5 年平均では、全国、千葉県を上回っており、引き続き、推移を注視し、分析してまいります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・また、千葉県や全国の取り組みで、効果が出ていて本市でも参考にできるものがあれば伺いたいです。</li> </ul> <p>⇒健康推進課より回答：</p> <p>自殺対策については、千葉県、全国で様々な取組が行われており、先進的な取組事例については、国の指定法人である「いのち支える自殺対策推進センター」発行の「自殺対策政策パッケージ」や研修等で情報を得て、本市の取組の参考としています。しかしながら、1 つの取組について、「この取組をしたから自殺者数が減った」と効果を測定できるものではなく、様々な取組を継続的、重層的に行うことが、自殺者数を減らすことにつな</p>

	<p>がると考えられています。</p>
宮本 晃委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が自殺対策の手厚い対策を作って頂いて感謝しています。</li> <li>・自殺が身近に起こった経験はありませんが、老人クラブでもそういったことが起きないように「健康・友愛・奉仕」を掲げて活動しています。</li> </ul>
斎藤 浩一委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3～4年の松戸市自殺死亡率が全国（県）よりも高いことが気になりました。</li> </ul>
水嶋 春朔 （オブザーバー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料9、5ページ、（参考）自殺者数の推移の「小・中・高生の自殺者数の推移」を見ると、小中高生、特に中高生の自殺者数が増えています。これを踏まえて資料3（松戸市の自殺の統計について）9ページを見ると、「学生・生徒数」が令和4年増えています。国の統計同様に、松戸市の「小・中・高生の自殺者数」は分かっていますか。自殺対策は1つの対策が全ての世代、全ての立場に通じるわけではないので、学校関係ではどこが大事なのか、いじめ、虐待が大事なのか等検討することが大事なので、「学生・生徒」の内訳が分かれば教えてください。</li> </ul> <p>⇒健康推進課より回答：</p> <p>ご質問を受け、確認したところ、千葉県衛生研究所が発行している「千葉県における自殺の統計」では、千葉県の「小中学生」および「高校生」の自殺者数が公表されており、千葉県衛生研究所に、本市の小中高生の自殺者数を把握する方法について問合せしました。</p> <p>千葉県衛生研究所の回答としましては、千葉県の「小中学生」および「高校生」の自殺者数は千葉県警より提供される「自殺統計原票データ」を用いていますが、その数は年間10人台から30人台で推移しているため、自殺者および遺族等への配慮から市町村別に数字を公表していないのではないかとのことでした。しかしながら、千葉県衛生研究所としても、各市町村が自殺対策を推進する上で、「自殺統計原票データ」の活用はとても重要であることから、「小中高生の自殺者数」を含め、集計分析について引き続き検討していきたいとのことでした。</p> <p>なお、補足になりますが、本市では直接「自殺統計原票データ」を入手することはできず、本市が統計資料で用いている「警察庁自殺統計」を出典とする表、図等は、警察庁が「自殺統計原票データ」を取りまとめたものを、厚生労働省が「地域における自殺の基礎資料」として市区町村別に集計し、公表しているデータを用いて作成しております。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じく資料 3（松戸市の自殺の統計について）9 ページについて、「無職者」が半数以上を占めていますが、具体的にはつい最近退職したのか、もともと働いていないのか等はわかりますか。有職者であれば、事業所への対策を商工会議所等と一緒にすすめていくことが有効と考えられますが、無職者だとターゲットが分かりにくいいため質問しました。 ⇒健康推進課より回答： 無職者について、退職時期や無職期間を把握することはできませんが、無職者の内訳として、「学生・生徒等」以外に「主婦」「失業者」「年金・雇用保険等生活者」「その他の無職者」に分けて自殺者数が公表されています。こちらの分類でデータをまとめたものを、今回お送りしている「計画案 素案」の 10 ページ、11 ページに掲載しておりますのでご参照ください。</li> <li>・資料 3（松戸市の自殺の統計について）9 ページ「無職者」について、松戸市は生活保護受給者が多いとの話もありましたが、実際に生活保護受給者が年間何人ぐらい自殺しているか等把握していますか。 ⇒生活支援課より回答： 死亡者のうち自殺者数というのは統計をとっているわけではありませんが、これまで支援記録を見る中では、自殺で亡くなる方は多くはありませんが散見されます。</li> <li>・資料 2 について、第 1 期計画の評価を客観的指標で押さえることが、有効な第 2 期計画立案につながると思います。</li> <li>・資料 3 について、性・年齢階級別のセグメントごとに特徴を分析して、有効な対策が可視化できるといいでしょう。</li> <li>・資料 4 について、相談状況調査のいずれかにも繋がっていない方の自死、繋がった方の自死の分析はできますか。また、生きる支援相談窓口（総合的）の R4 の件数が多くなっていますが、相談内容の分析はできますか。 ⇒健康推進課より回答： 資料 4 は自殺の関連要因についての相談件数等、相談状況をまとめたもので、この件数の中に自殺した方も含まれている可能性はありますが、詳細は把握しておりません。しかしながら、委員ご指摘の「自死された方は相談事業に繋がっていたのか」という視点は、大変重要な視点と認識しており、会議資料には記載しておりませんが、今年 10 月に、市の関係部署を対象に、相談事業等で関わりがあった市民が、直近 1 年以内に自殺を図</li> </ul>
--	---

	<p>ったと把握しているケースの有無、件数について調査を実施したところ。現在結果を取りまとめており、次回の会議でご報告できればと考えております。また、「生きる支援相談窓口」につきましては、令和4年度より開設した窓口であり、相談内容の詳細につきましては資料7に記載をしております。</p>
後藤 良輔 (オブザーバー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な相談窓口、システムがあることが分かりました。より多くの市民に周知していただきたいと思います。</li> </ul>
早坂 勝久 (オブザーバー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自殺対策を効果的に進めて、自殺者の減少につなげていただきたいと思います。</li> </ul>

<議題(3) 自殺対策計画の進捗状況について>

飯野 理恵委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料6に「ゲートキーパー養成研修の実施」で令和4年度に526名の参加者がいらっやって、研修の受講者が着々と増えていると思いました。オンデマンド配信にも取り組んでいて、工夫されていると感じました。ありがとうございます。</li> </ul>
武田 直己委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きる支援相談窓口での多様な相談内容が紹介されているが、どのような職種の方が対応し、どのように対応されたのか、その成果などが示されてもよいと思います。その上でどのように対策を講じるかを考えると次につながるのではないのでしょうか。</li> </ul>
竹内 恵子委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料6について、このような取組を充実させることが良いと思います。</li> <li>・資料7について、相談内容を見ると様々なことがあると、改めて気づかされました。</li> </ul>
町山 貴子委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松戸市でいじめに関する窓口を作ると聞いておりますが、いじめ対策についてどのような対策をしていますか。</li> </ul> <p>⇒児童生徒課より回答：</p> <p>いじめ相談窓口を実施し、専門の相談員が対応しており、年間約60件相談があり、ほとんどは保護者からの相談になっております。相談専用ダイヤルは教育委員会にあるとは示しておらず、要望があれば児童生徒課を紹介し、児童生徒課が話を聞き、学校と連携し解決に向け動きますが、直接児童生徒課にいじめに関する相談が入ることもあります。なお、「いじめ防止基本方針」に則った対応をするよう学校にも指導しています。指導主事、弁護士を学校に派遣することや15名のスクールソーシャルワーカーが加害側、被害側の保護者に寄り添い、それぞれの児童の課題解決に向けた支援も実施しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料5について、概ね目標を達成していただいていることに敬意</li> </ul>

	<p>を表します。達成度△、×の事業については更なる推進を期待します（No32 子どもわかもの課の達成度は△でも良いのでは。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料7について、男性を相談窓口につなげ、相談を継続する（させる）ことが難しく感じます（対応策がなかなか見つけられませんが）。</li> </ul>
木内 利明委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各資料とも取り組み状況が把握しやすく良いと思います。</li> </ul>
宮本 晃委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庁内関連連携部署が多く、幅広く意見、提案が得られ、目的遂行には良い体制だと思います。</li> </ul>
斎藤 浩一委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各対象向けのゲートキーパー養成にご尽力、ありがとうございます。職場や学校等のみならず、一般の人にも知ってもらうことが自殺予防の大切な点とっております。</li> <li>・生きる支援相談窓口の活動は本当にご苦労様です。やはり精神の悩みが多いようです。相談員さんのケアにもご留意ください。</li> </ul>
水嶋 春朔 (オブザーバー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料5について、重点施策（例えば1_8 弁護士会松戸支部と無料相談会）などで、開催実績に参加者数、対応人数などの数字を追記してください。 ⇒健康推進課より回答： 「自殺対策計画進捗確認シート」は関係課における自殺対策関連事業についての実施状況をまとめたもので、自殺対策計画の全体的な進捗を、効率的に把握するためのツールとして毎年度作成しているものです。次期計画期間においても継続して使用する予定ですので、今後の作成にあたっては、各事業の実績に参加者数、対応人数等、数値を記入するよう留意してまいります。</li> <li>・資料6について、HPの案内から相談窓口につながった相談者の人数は把握できませんか？HP（スマホ版含む）がわかりやすく、ワンクリックで適切な部署などにつながる事が大事だと思います。 ⇒健康推進課より回答： 相談窓口によって、ホームページの案内からつながった相談者の人数はまちまちだと思われませんが、健康推進課の「生きる支援相談窓口」については、初回相談時に当窓口の情報入手方法を確認しております。今年4月から9月までの初回相談者131人のうち、市のホームページを見たという方は55名（42.0%）です。また、当窓口のホームページの4月から9月までの閲覧数は3,864件です。ホームページには、他の相談窓口や「松戸市いのち支える連携ガイドブック」についての情報、リンクを</li> </ul>

	<p>掲載しており、その方が抱える悩みや問題に対して適切な相談窓口につながるよう、引き続き取り組んでまいります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料7について、生きる支援相談窓口相談数が年度後半から増加してきているのは、周知されてきたということでしょうか。40代（263人）・50代（96人）の相談者数が多く、自死者の分布を反映しているように思えますが、男性より女性の相談者数が多いですね。男性の40・50代の自死企図者を支えることに繋がっていないかもしれません。</li> </ul> <p>⇒健康推進課より回答：</p> <p>「生きる支援相談窓口」の相談件数については、資料7に記載のとおり、令和4年度延543件でしたが、今年度は9月末まで延711件となっており、昨年度に比べて相談件数は増加しております。要因としましては、ご指摘のとおりホームページやチラシ等を通じて、市民および関係機関への周知が進んできていることと、継続相談者のうち数名の相談頻度が高いことも要因の一つと考えております。</p>
後藤 良輔 (オブザーバー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの活動をされていることが分かりました。より多くの命を救えるよう応援しています。</li> </ul>
早坂 勝久 (オブザーバー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談することで、狭くなっていた視野も広がり、少しでも前向きになれると思うので、引き続き取り組んでいただきたいと思えます。</li> </ul>

<議題(4) 第2期松戸市自殺対策計画の策定について>

飯野 理恵委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2期松戸市自殺対策計画の策定についての資料、ありがとうございます。自殺に関する統計資料としては把握しにくいことと、松戸市では他の部署や機関で対応しているかもしれないですが、性的マイノリティの方への支援は含まれないのでしょうか。</li> </ul> <p>⇒健康推進課より回答：</p> <p>性的マイノリティの方については、国の自殺対策総合大綱においても、社会や地域の無理解や偏見等により自殺念慮を抱えることにつながるよう支援の充実を図ることとされており、本市においても支援が必要と認識しております。</p> <p>第2期松戸市自殺対策計画においては、重点施策の一つに「女性・マイノリティ等の自殺対策の推進」を新たに追加し、性的マイノリティを含む様々なマイノリティの方への支援を行ってまいります。今回お送りしている「計画案 素案」の42ペー</p>
---------	---

	ジ、43 ページに掲載しておりますのでご参照ください。
武田 直己委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自殺は、精神医学的な面だけでフォローできる問題ではありません。生活困窮者への支援、経済、生活上のサポートが生きていく上での安心感になるので、医療だけでなく様々な分野の連携が重要です。</li> <li>・松戸市は近隣市に比べて生活保護の方が多いと聞きます。また、松戸の地域は精神科医療の資源、サポート体制が乏しいと感じられる一方で、他地域に比べて精神科の救急患者が多いです。家族のサポートがない方が急速に悪化するケースが多く、救急隊があたふたすることも多いと思います。</li> <li>・このように問題は多岐にわたるので、一つ一つ解決にあたるのが、対策につながってくるのではないのでしょうか。</li> <li>・全体として方向性は良いと思います。着実な実行を期待します。</li> </ul>
加藤木 好美委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 10 第 4 章 第 1 期計画の評価 10～15 ページ、目標値が「実施」、総括欄が「予定通り実施」となっている評価項目について、評価欄「◎（達成）」と「○（ほぼ達成）」の違いがわからないので、説明があると良いと思います。</li> </ul> <p>⇒健康推進課より回答：</p> <p>委員のご指摘を受け、評価方法について追記しました。今回お送りしている「計画案 素案」の 17 ページをご参照ください。</p>
竹内 恵子委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署で様々な取組をされているのは評価できます。今後、横の連携を一層強化できると良いと思います。</li> </ul>
町山 貴子委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自殺は何が要因なのか、発作的な場合もあるのか等、分からない部分が多い一方、市民アンケートでは多くの方が自殺を考えたことがあると回答しており、自殺対策は難しい課題だと思います。</li> <li>・第 2 期松戸市自殺対策計画（案）ありがとうございます。ご担当課（ご担当者）、関係課のご苦勞が伝わってきます。</li> <li>・資料編の健康づくりに関する市民アンケート調査結果につきましては、特に自殺をしたいと考えたことがある割合に驚きました。今後も市と共に自殺対策について真剣に取り組む必要性を強く感じました。</li> </ul>
木内 利明委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 10 3 ページ 自殺死亡率の計画の数値目標について 現状値からすると令和 8 年の目標達成はハードルが高いように思います。</li> </ul>
宮本 晃委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者も仲間とつながり、元気に活動することが自殺減少につながると思うのでひきこもらないよう、助け合ってやっていくことが大事だと思います。</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自殺者が減少傾向であることは良いことです。40～50代の男性等、経済情勢の影響を受けやすい年代もあり、そのような対策も必要ではないかと思います。これからも手厚い支援体制を作って頂きたいです。</li> <li>・自殺は勇気のいることです。死ぬ勇気があれば勇気を出して相談窓口に出向いてもらいたいと思います。死を覚悟して相談に行く人はまだ生きたいと思っている人ではないでしょうか。問題は誰にも心を打ち明けず、ひとりぼっちで悩み、自分を追い詰め生きる道を失い、死に至る。この自殺者を一人でも減少させるべく行政、社会は手厚い支援を施しています。</li> <li>・いじめについては古今東西、昔からあります。人間に感情、競争意識がある限り。不健康、経済面の要因による自殺者は、時の社会情勢にもよりますが、健康面は現在の医学の進歩で大きく改善されています。</li> <li>・誰も自殺に追い込まれることのない松戸市でありますように。この松戸市の行き届いた取り組み、計画が市民に浸透し、理解され、自殺者減少の結果が生ずることを祈願いたします。</li> </ul>
元川 智栄委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自殺は必ずしも鬱病や体調などが原因ではないと思います。小中高時代に何度も死にたいと考えた事がありますが、鬱でも体調不良でもなかったです。自分の世界が小さく、友達関係が上手く行かなかったり、仲間はずれにされたり、挫折することがある度に楽になりたい、消えたいなど考えました。そばに刃物や高い建物がなく、行動に起こす事がなかっただけです。大人になり、とても小さな世界での悩みで笑ってしまいますが、あの頃は学校の友人達との世界がすべて、他の未来は見えませんでした。</li> <li>・沢山のコミュニティがあると明るい未来が見えるのかなとも考えます。(気楽に地区内外で参加できるような場所) 宜しくお願い致します。</li> </ul>
斎藤 浩一委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「1年以内に自殺を考えたことがあるか」に対し、男女ともに30歳代が高い割合となっていること、背景が気になりました。</li> </ul>
水嶋 春朔 (オブザーバー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料8(第2期松戸市自殺対策計画の策定について)について、資料9の2ページ(「自殺総合対策大綱」の概要)からとってきているものと思います。資料9の2ページ、第4自殺総合対策における当面の重点対策の「1. 地域レベルの実践的な取組への支援を強化する」とあるように、松戸の地域特性を踏まえて重点的に取り組むことなどあれば教えてください。</li> </ul> <p>⇒健康推進課より回答：</p>

	<p>資料 8 の 4 ページ「施策体系」の「重点施策」1～3 について「地域自殺対策実態プロファイル」における松戸市の特徴を踏まえて設定し、それらに加えて「重点施策」4～5 について自殺総合対策大綱で強化するとした内容を踏まえて設定しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料 8 について、スケジュール上、実質的な意見交換の場が少ないですね。男性の 40・50 代を対象とした重点対策（資料 3 では、経済・生活問題＞勤務問題）がメッセージとしてみえないです。重点施策 3「勤務・経営問題に関わる自殺対策の推進」を「経済・勤務・生活問題に関わる自殺対策の推進」に変更してはいかがでしょうか。「経営問題」は資料 3 の自殺統計の検討ではできていません。1「生活困窮者」と重なる面もありますが、困窮の前の状態が含まれるようになると思います。</li> </ul> <p>⇒健康推進課より回答：</p> <p>現在の第 1 期計画では、本市の重点施策について、国から毎年送付される「地域自殺実態プロファイル」に示されている「推奨される重点パッケージ」等をもとに、対象を定めております。</p> <p>「推奨される重点パッケージ」は、「子ども・若者」「勤務・経営」「生活困窮者」「無職者・失業者」「高齢者」の 5 つのカテゴリーの中から、各自治体の自殺者の性別、年齢等の特性を参考に、重点的に取り組むべきカテゴリーを国が選定するもので、第 1 期計画を策定した平成 30 年度のプロファイルでは、本市の「推奨される重点パッケージ」として「高齢者」「生活困窮者」「勤務・経営」の 3 つが選定されておりました。この傾向は現在も変わらず、令和 4 年度のプロファイルにおいても、本市の「推奨される重点パッケージ」として「高齢者」「生活困窮者」「勤務・経営」の 3 つが選定されております。第 2 期計画においても、資料 3 の自殺統計を踏まえた上で、最新のプロファイルに示された「推奨される重点パッケージ」等をもとに重点施策を決定しております。また、選定されたカテゴリーに対する施策（重点施策の内容）は、同じく国から送付される「地域自殺対策政策パッケージ」に掲載されている具体例等を参考に策定を進めておりますが、委員ご指摘の、生活問題に関わる支援についても、皆様のご意見を参考に、引き続き検討してまいります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料 9 について、厚労省の発表資料なので、特にありませんが、概要第 4 自殺総合対策における当面の重点施策の「1. 地域レベルの実践的な取組への支援を強化する」を踏まえた松戸市の特徴を</li> </ul>
--	---

	<p>浮かびあがらせるようにすることが重要だと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料 10 について、第 3 章松戸市における自殺の特徴をしっかりと客観的に記述してください。P8 の自殺実態プロファイルで、1・2・3 位が 2014～2018 と 2017～2021 で不変。40・50 代有職同居男性の自死の原因は？2・3・4 位は無職者ですが、このセグメントへの対策は何を重点化しますか？</li> </ul> <p>⇒健康推進課より回答：</p> <p>第 3 章については、会議資料で作成中となっていたものを含め、今回お送りしている「計画案 素案」の 5 ページ～16 ページにデータ、分析を追記しておりますのでご確認ください。「地域自殺実態プロファイル」の自殺の特性上位に位置している「男性 40～59 歳有職同居」につきましては、委員ご指摘のとおり、以前より自殺割合が高い状況が続いております。要因としては、仕事に関する悩み、ストレスから健康問題も引き起こす場合や、家庭、経済、生活問題が悪化し、心理的に追い込まれる場合など、複合的な原因、背景を有していることが考えられます。無職者については、今回お送りしている「計画案 素案」の 10 ページ、11 ページにありますように、「年金・雇用保険等生活者」では高齢者や障害者、「その他の無職者」では就職していない若年層や引きこもりなど、想定される対象について、基本施策、重点施策を中心に、生きる支援関連施策も含め、庁内の様々な部署が「生きることの支援」を包括的に実施することが重要と考えております。</p>
<p>後藤 良輔 (オブザーバー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>警察では、実際に自殺をした方について事件性があるかの調査で対応することになります。担当は刑事課だが、生活安全課でも、「そんなことが原因か」といったことで自殺したというケースを垣間見ることがあり、相談窓口につながっていればと悔やまれます。</li> <li>このような施策を浸透させていくことで、救える命もあるのではないかと感じます。</li> </ul>
<p>早坂 勝久 (オブザーバー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自殺未遂者へのフォローをしっかりとお願いしたいということと、亡くなった方の遺族についてのフォローの仕組みもしっかり考えていただきたいと思います。</li> </ul>
<p>竹内 啓二 (オブザーバー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東葛地区における「生と死を考える会」は創設 30 年、認定 NPO 法人になって数年になります。グリーンサポートの活動をしており、自死遺族の痛みのわかちあいの会を月 1 回開催しています。それ以外の病気、事件、事故等で亡くされた方のわかちあいの会</li> </ul>

	<p>も柏市等、各地で行っており、遺族の話を傾聴するボランティアや、同じような立場の人が集まり共感する場となっています。また、親を亡くした子どものグリーフサポート、生と死の教育、死を見つめてよりよく生きるための学習会、講演等や病院でのボランティアも実施しています。</p> <p>・柏市の自殺対策の委員もしており、同様の問題があると感じます。</p>
--	---

<その他の意見>

<p>斎藤 浩一委員</p>	<p>・ 生きる支援相談窓口は松戸市が直接運営されていると聞きました。対応は本当に大変だと思いますが、頑張ってください。外部に委託するでなく、直接取り組まれる姿勢は素晴らしいと思います。</p>
<p>水嶋 春朔 (オブザーバー)</p>	<p>・ 「経営問題」が、対策として突然でてくることに違和感があります。根拠を明示してください。</p> <p>⇒健康推進課より回答： 「経営問題」について、「勤務・経営問題」が重点施策に含まれていることにつきましては、資料8についての回答に記載したとおりです。重点施策の根拠となっている「地域自殺実態プロファイル」については、今後も、市民および関係者の方々にわかりやすく説明できるよう方策を検討してまいります。</p>
<p>早坂 勝久 (オブザーバー)</p>	<p>・ 自殺を考える方は、しばらく躊躇してから行動を起こす傾向があるので、おかしい動きが見受けられたら声をかけていただきたいと思います。</p>